

研究テーマ
「書字に抵抗のある児童に
作文を書く意欲をもたせる指導」

1

本実践に関連する児童生徒の実態

対象児童生徒 小学校 第4学年

○課題

- ・ 書字に強い抵抗感がある。
- ・ 平仮名が思い出せなかったり鏡文字になったりすることがある。
- ・ 書く活動があるというだけで意欲がなくなることがある。

○強み

- ・ 好きなこと、興味のあることには集中力を発揮する。
- ・ 発表や人を楽しませることが好き。
- ・ 工作が得意。
- ・ 人と話すことが好き。

2

指導目標・指導仮説

教科等及び単元名
国語科 アップとルーズで伝える
クラブ活動リーフレットを作ろう

目標（本実践終了時の期待する子供の姿）
興味のある活動を紹介する目標を達成するために、構成に
気をつけて、作文を意欲的に書くことができる。

指導仮説

得意な工作を友達に紹介するリーフレットを作ることを目標
に設定することで、構成を考えて伝わりやすい文章を書く意
欲を維持して、作文を書くことができるであろう。

児童生徒の実態

3

指導・評価の計画

◆表1 指導・評価の計画

	主な学習活動	目標	評価方法
1次	教科書の本文から、対比的な段落関係を含んだ文章全体の構成をとらえる。	写真と文章を対応させて読みながら、対比的な段落関係をつかみ、それを含んだ文章全体の構成をとらえる。	単元末テスト
2次	教科書の本文から、分かりやすい説明文の書き方を学習する。	始め、中、終わりの文章構成を、自分の作文を意識しながら捉えることができる。	発言 紹介文の構成
3次	工作の楽しさを伝えるリーフレット作りをする。	構成を意識して書きたい内容を話し、意欲的に作文を書くことができる。	リーフレット

◆表2 実践前後の変容の評価

	評価内容	評価方法
①	紹介文の構成は適切か。	リーフレット
②	意欲的に作文に取り組んだか。	行動観察

4

指導の実際①

ワークシートを使って、「アップとルーズで伝える」の本文を学習

(例)

本文を読んで、段落の内容を把握し、文章の組み立ての工夫を捉えるワークシート

本文を読んで、段落の内容を把握し、文章の組み立ての工夫を捉えるワークシート

内容が書かれたカードを並べるように工夫

5

指導の実際②

リーフレットに掲載するための工作



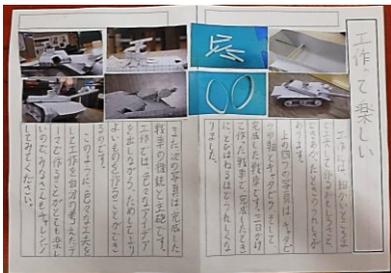
自立活動の時間、図工、休憩時間を利用して製作。

実際に工作をすることで、作文への意欲を高めた。リーフレット用の写真も、自分で撮影できるようにした。

6

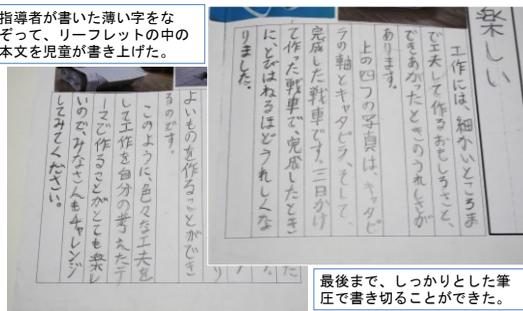
指導の実際③

リーフレットの本文は、児童が話した文を、指導者が薄く書いて、なぞって書けるようにした。



指導の実際④

指導者が書いた薄い字をなぞって、リーフレットの中の本文を児童が書き上げた。



最後まで、しっかりとした筆圧で書き切ることができた。

学習過程の評価

次	学習活動	児童生徒の状況	達成状況
1	教科書の本文から、対比的な段落関係を含んだ文章全体の構成をとらえる。	ワークシートにゲーム感覚で取り組むことができ、対比の関係、写真との対応、文章の構成の工夫をとらえることができた。	○
2	教科書の本文から、分かりやすい説明文の書き方を学習する。	最初は工作の手順を説明しようと考えていたが、学習の中でリーフレットを理解し、「工作の楽しさ」を伝える内容を、「始め、中、終わり」を意識して文章を考えることができた。	○
3	工作の楽しさを伝えるリーフレット作りをする。	相手意識を強く持ち、工作の楽しさを伝えようと、最後まで意欲的に作文に取り組んだ。本文で学んだことを生かして、作文の構成や、写真との対応を考えることができた。	◎

実践前後での児童生徒の変容

実践前	実践後
文章を書くことに対して、強い抵抗感を示していた。	得意の工作を紹介するということに喜びを感じながら、文章の構成や表現、写真との対応など、最後まで伝わりやすい紹介文を考えることができた。最終的になぞって書く方法にしたことで、長文を最後まで丁寧に書くことができた。

指導仮説の検証

- 児童生徒は目標を達成したか。
 - ・十分に達成した。
- 判断の理由・根拠
 - ・文章の内容を、伝えたい友達を意識して意欲的に考えた。
 - ・最後まで、丁寧に文章を書くことができた。
- 指導の工夫は有効であったか
 - ・有効であった。
- 判断の理由・根拠
 - ・ワークシートにゲーム感覚で楽しんで取り組み、内容(写真と文章の対応、文章の構成)の理解を促せた。
 - ・紹介したい相手を常に意識して、工作や作文に取り組むことができた。

指導の改善案

成果 (よかった点)	課題 (改善が必要な点)
・興味のある工作と、人に紹介するという好きな活動を組み合わせることで、抵抗感の強い作文に最後まで取り組むことができた。	・今回は、児童が話す文章を、指導者が薄く書いた字をなぞって作文をした。主体的に取り組めるよう、最初から自分で文章を書く工夫が必要である。

成果・課題を踏まえた改善案
 ・人に紹介することを目標にすると作文に意欲的に取り組むことができたことを踏まえ、短い作文からいろいろな人に評価してもらい、自分で作文を書けたという成功体験を積み重ねる。